

沖見初炭坑株式会社（原書 P136～140）

本社 下関市観音崎町五番地ノ一

鉱業所 山口県厚狭郡宇部村字岬

設立 大正五年九月

資本金 五拾萬円也 払込金 卅 七萬五千円也（額面百円）

目的 石炭の採掘販売

#### 重役の氏名

専務取締役	西岡貞太郎	常務取締役	藤井 保
取締役	宅野 潔	取締役	石田亀一
同	浅田泉次郎	同	岡 和
同	三隅珍太郎	監査役	宮本政次郎
監査役	土屋新兵衛	同	真鍋善作

#### 沿革及現状

同社の鉱区は山口県下宇部半島の一角に位置し、数年前より現常務藤井氏の所有鉱区なりしも、炭界不振の為め採掘するに至らず、抛棄の状態なりしを鈴木商店に買収せられ、同店関係者名義の下に資本金五拾萬円の株式会社と組織し、同鉱区を拾四萬六千余円にて継承したるものにして、目下起業中に属せり。

元来同鉱区は宇部半島沿岸の海底にして総面積は四百七萬壺千余坪と註せられ、其採掘設計は水底七拾尺を掘り下げ、本坑二道、斜坑四道（何れも三尺層）を掘鑿し之を主坑とし、別に二道の副坑を作り、主坑の一日採炭量は二千噸乃至二千五百噸の予定にて、主坑、副坑共に明七年九月頃より採掘し得べく、仕向先は京阪地方、其他内地用に供給する目的なるが、炭質は稍劣等品なるも出炭量の豊富、採掘費の低廉、搬出の利便等有利なる条件を具備せるを以て、採算上優に年五六割の配当を成し得べき確信を有し居れり。

而して、運搬は同海岸が常に波濤高く荷役に困難なるより、既設宇部軌道と官線とを利用する計画なりしも、斯くて○○○○○○○○○○を要するより規模を拡大し、七萬円内○○○○○を以て完全なる築堤を設け、二百噸級の積船十隻○○○に出入操縦し得る程度に設計を変更し目下海面埋立工事中なるが、竣成迄には前途尚相当の日子を要すべき模様なりと云ふ。

同社の本年上半期貸借対照表を挙ぐんば左の如し

(単位：円)

資 産 之 部		負 債 之 部	
未払込株金	250,000.00	資本金	500,000.00
鉦区代	146,121.60	鉦区代未払金	50,000.00
土地及建物	12,656.13	借入金	30,000.00
機械器具	30,094.00	未払金	15,925.56
什器	1,477.54		
興業費仮勘定	135,306.80		
貯蔵品	7,145.78		
仮払金	2,515.78		
銀行預金	4,911.08		
現金	1,098.28		
前期損失金	56.18		
当期損失金	4,542.39		
合計金	595,925.56	合計金	595,925.56